

現行制度とモデル事業の一次判定による判定結果の比較

現行制度とモデル事業の一次判定による各要介護(要支援)状態区分の出現状況

	非該当	要支援1	要介護1相当 (要支援2および 要介護1)	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
現行制度	4.8%	21.8%	39.3%	12.1%	9.2%	6.8%	6.1%
モデル事業	2.5%	23.8%	38.7%	12.3%	8.9%	8.9%	4.9%

現行制度とモデル事業の一次判定による各要介護(要支援)状態区分の一致率等

	件数	比率
一致	17,764	57.6%
一次判定(現行)→一次判定(モデル事業) 軽度の判定	6,088	19.8%
一次判定(現行)→一次判定(モデル事業) 重度の判定	6,965	22.6%
計	30,817	100.0%

現行制度とモデル事業の二次判定による判定結果の比較

現行制度とモデル事業の二次判定による各要介護(要支援)状態区分の出現状況

	非該当	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
現行制度	1.5%	19.4%	20.6%	19.5%	14.4%	11.5%	7.3%	6.0%
モデル事業	1.7%	21.7%	17.2%	21.0%	14.3%	10.5%	7.9%	5.7%

現行制度とモデル事業の二次判定による各要介護(要支援)状態区分の一致率等

	件数	比率
一致	19,442	63.2%
二次判定(現行)→二次判定(モデル事業) 軽度の判定	6,189	20.1%
二次判定(現行)→二次判定(モデル事業) 重度の判定	5,139	16.7%
計	30,770	100.0%

要介護認定モデル事業(第二次)の結果の概要

- ・ 二次判定による重度変更、軽度変更ともに全国での平準化が図られた。
- ・ 要支援2、要介護1の全国での出現比率のバラツキは若干の改善が見られた。
- ・ 現行及びモデル事業の一次判定において判定が一致した割合は57.6%、モデル事業の方が現行の判定より重度に判定される割合は22.6%、軽度に判定される割合は19.8%であった。
- ・ 現行及びモデル事業の二次判定において判定が一致した割合は63.2%、モデル事業の方が現行の判定より重度に判定される割合は16.7%、軽度に判定される割合は20.1%であった。
- ・ 全国における各要介護(要支援)状態区分の出現割合については、一次判定、二次判定ともにほぼ現行の審査判定と同等であると考えられる。

今後、今回の検討内容を基にバグの修正等を含めソフトウェアの改修を行い、平成21年度のソフト導入をすすめたい。